

文芸コーナー

短歌 稲を刈るかたへの堤に咲く葛の花の匂へる埃まとひて 難病に失ひしもの多けれど歌詠む喜びあらたに加はる 野分去り雲の小片遠く見えつゆ草いろの空に浮遊す 七年後に東京五輪の定まりて目標生るるわれら夫婦に 日の光大西洋に煌めきて中秋の満月カナダにて見る 小林大門下 品村 葉子 田口 三石選

短歌

加藤恵美子選

俳句

田口 三石選

<短歌・俳句をお寄せください>

一人一首または一句で未発表のもの。毎月 20 日締め切り(必着)です。投稿は、住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、秘書広報課広報広聴班まで。

ほっとレポート



広報レポーター：渡邊 信一 (若萩)

地域がっつなく伝承の息吹 「浦部の神楽」

浦部鳥見神社の創建は、江戸初期の1648年(慶安元年)で、1703年(元禄16年)と1989年(昭和63年)に再建されています。同社の神楽は昭和42年には県指定無形民族文化財に認定されています。



▲躍動感あふれるキツネ(稲荷神)が特徴の「神明の舞」(写真上)と神楽殿の全景(写真下・舞は「神子舞」)

神楽ともいわれ、社中のメンバー20人によって傳承されています。その中には楽人が含まれます。演奏は笛4人、太鼓2人、全員が舞人です。神楽社中は昔から代々氏子の長男が主として繼承されてきたそうです。

演目「神子舞」からスタートし、翁の面を被った舞人が五穀の元祖(稲荷神)が鎌を以って土地を耕す演目「神明の舞」や天の鉦女の命(アメノウスメ)ノミコトの面を被った舞人の演目「笹舞」と続きました。



▲「大蛇の舞」は十二のうち最も迫力がある演目

十二座神楽の白眉は最後の舞の「火男の舞」で、内容は火男が餅を盗むのを見て大山祇命(オオヤマツミノミコト)がその餅を取

り戻すものです。その取り戻したお餅を神楽見物に来た子どもたちに向かって撒くのが神楽最後の楽しみだそうです。また、社中の武藤輝久男代表によると浦部神楽社中のメンバーは高齢化しつつあり一番若い人でも40歳代で、人材育成の為に若い人材を求めています。

リサイクル情報広場

掲載情報は10月31日現在 〇〇クリーン推進課クリーン推進班(☎内線383)

- ◆ゆずりませ情報(有料の物は希望価格) ①プリンタ用詰め替えインク②プリンタ用インクカートリッジ③犬の洋服④船穂中学校女子制服・ジャージ⑤スキー服(女性用)⑥パンツプレス⑦インクジェットプリンタ用インク7色(1千円)⑧アルトサックスホン(5万円・要相談)⑨しおん幼稚園帽子⑩千葉商科大学付属高校制服。

- ◆さがしています情報 ①ボーイスカウトカブ隊の制服②わだ幼稚園男児、園服および体操服③ロックミシン④大森小学校の体操服⑤印西中学校の女子用制服と運動着⑥しおん幼稚園男児、女児用ジャージ、男児、女児用体操服(大きめサイズ希望)⑦天神幼稚園男児、女児制服、ブラウス等⑧犬用乳母車⑨補聴器。

※詳しくは市ホームページをご覧ください

毎月5日は「ノーレジ袋デー」です。お買い物にはマイバッグを持参しましょう。



施設がいに



広報レポーター：岡田 芳文(平賀)

北総鉄道 印旛車両基地

車両も18mでいずれも8両編成(144m)とされている。この144mある電車が最大152両も収納可能な場所が印旛牧の原駅近くの国道464号脇にある。



▲広大な車両基地には何種類もの車両が待機

北総線のドクターイエロー? 「マルチプルタイタンバ」



▶車両整備を行うための「検査庫」の内部

現在、北総鉄道が保有する車両は96両(うち千葉ニュータウン鉄道保有車両40両を含む)。これと乗り入れ先の三社の車両を合わせると、北総線内の平日運行本数は上下で一日217本、土・日曜日、祝日でも167本の電車が走っている。

これらの電車を毎日安全に運行するための車両基地では、一日あたり約15人のスタッフが車両のメンテナンスを行っている。通常、電車は終電・始発のそれぞれ2本は通常運転士が操作するが、それ以外は車両基地と印旛牧の原駅間だけの限定運転士がピストン輸送する。このため、車両基地には宿泊施設も完備。毎日、運行前に出庫点検を行うほか、運行から6日以内には消耗品の交換などを行う「列車検査」、そして3カ月以内には4〜5日間をかけてモーターや制御器を入念に調べる「月検査」、また、車輪の擦り減りを削正する作業も10カ月ごとに行っている。このほか、4年または60万kmま

で行う「重要部検査」、8年以内の「全般検査」は京成の宗吾工場で実施される。こうした作業が基地の主な仕事だが、北総、京成、都営地下鉄、京急の4線の電車が勢ぞろいする車両基地の見学は子どもたちの大きなあこがれ。その電車や普段見ることが出来ない保守作業車など、実際に触れて感じる催しが10月19日に行われ、応募数約3,500人から抽選で選ばれた117組345人の親子が参加した。沿線住民との触れ合いの一環として昨年にも実施されており、毎年好評をいただいている。「安全」が命の公共交通機関。その深部の一端に触れ、改めてその苦労・重要性を学んだ。北総鉄道(株)企画室(☎047-445-1902)。